

オスプレイ 使用可能性も

玄葉外相が言及

【東京】玄葉光一郎外相は25日の定例会見で、東村高江区で進められているヘリパッド建設工事と、普天間飛行場に配備される米軍垂直離着陸輸送機MV22オスプレイとの関係について、「(ヘリパッド建設工事が)必ずしもオスプレイ配備のために行っているものではない」との認識を示した。その上で、「米海兵隊が実施した環境レビュー

にもある通り、建設完了後、MV22の訓練にも使用され得るものと承知している」とし、オスプレイ使用の可能性に言及した。

着陸帯建設中止 県と防衛局に要請

県民ネット

県議会会派の県民ネット(奥平一夫会派長)は25日、県庁と沖縄防衛局をそれぞれ訪れ、東村高江のヘリ着陸帯建設の中止を要請した。沖縄防衛局の担当者は、工事の有無に関する協議はしないとした上で「SACO合意に基づいた工事で、基地負担軽減のために進めていく」とMV22オスプレイ配備との関連を否定し、工事を進める姿勢を示した。新垣清涼県議は「オスプレイの使用も決まり、状況はSACOの時と違う。せめてオスプレイの安全性が確認されるまで工事を止めるべきだ」と訴えた。赤嶺昇県議も「県民が反対する中での工事は強行以外の何物でもない」と同局の対応を非難した。

県は富銘健一郎基地防災統括監が対応し、「段階的に基地の縮小を図る方法だ」と述べ、近く担当者に現場を視察させる考えを示した。